

第18回史跡小牧山整備計画策定会議記録

日時	平成28年5月9日（月）午前10時00分～11時50分
場所	小牧市役所 本庁舎 3階 301会議室
出席者	<p>委員</p> <p>池田 洋子 会長 藤岡 幹根 副会長</p> <p>渡邊 守男 委員 速水 昭典 委員</p> <p>前原 宏一 委員 沖本 喜久江 委員</p> <p>梶間 巧 委員 名和 俊 委員</p> <p>丹羽 猛 委員 牧野 治 委員</p> <p>助言者</p> <p>松本 彩 愛知県教育委員会主事</p> <p>事務局</p> <p>安藤 和憲 教育長 大野 成尚 教育部長</p> <p>鍛冶屋 勉 教育次長 村田 吉隆 小牧山課長</p> <p>浅野 友昭 史跡係長 坪井 裕司 主査</p> <p>小野 友記子 主査 増田 聖 主事</p>
欠席者	正門 武彦 委員 山本 哲修 委員
傍聴者	なし
配布資料	<p>資料1 (仮称) 史跡センター展示基本設計 設計説明書</p> <p>資料2 (仮称) 史跡センター建設工事 基本設計書</p> <p>資料3 (仮称) 史跡センター周辺史跡整備基本計画</p> <p>資料4 (仮称) 史跡センター 名称(正式名称・愛称) 決定の流れについて</p> <p>その他資料 委員名簿、史跡小牧山整備計画策定会議設置要綱</p>

■議事録

【事務局（村田）】

お待たせいたしました。皆さん、おはようございます。

本日は、ご多忙の中、第18回史跡小牧山整備計画策定会議にご出席を賜りまして、まことにありがとうございます。

今回は、団体内の推薦の変更や人事異動、市役所内の人事異動の関係により、本会議より新たに4名の委員の方にご参加いただくことになりましたのでご報告申し

上げます。本来であれば、委嘱状につきましては、交付式を執り行うところではございますが、時間の都合もありますので、机の上の配付をもって代えさせていただきます。ご了承ください。

それでは、ただいまから会議を始めさせていただきます。

まず初めに、教育長の安藤からご挨拶を申し上げます。

## <1 あいさつ>

### 【安藤教育長】

改めまして、皆さん、おはようございます。

ゴールデンウィークも終わりました、いよいよ学校の授業、教育活動も本格的に開始というところでございますが、委員の皆様には、大変お忙しいところ、また今日から3日間ほどは雨模様ということで、足元の悪い中、本策定会議にご出席をいただきまして、ありがとうございます。

小牧山の整備につきましては、順調に各事業が進んでいるところでございます。その中でも本日主題になっております（仮称）史跡センターにつきましては、昨年度、基本設計が終了いたしまして、今年度は実施設計に取りかかろうとしているところでございます。本日は、史跡センターの基本計画の全容を報告させていただきたいと思っております。

また、旧本庁舎の整備につきましても、今年度末、実質は平成29年3月に完成する予定をしております。

今後の小牧山の整備計画につきましては、引き続き各委員の皆様のご理解をいただきながら進めてまいりたいと思っておりますので、今日もご審議のほど、よろしくをお願いをしたいと思います。

簡単ですが、挨拶にかえさせていただきます。

### 【事務局（村田）】

ありがとうございました。

それでは、池田会長からご挨拶を賜りたいと思います。お願いします。

## <2 策定会議会長あいさつ>

### 【池田会長】

皆さん、おはようございます。

お忙しい中どうもありがとうございます。

昨年何回か整備計画の策定会議を行わせていただいております。皆様のご協

力で何とか基本設計ができました。教育長さんもおっしゃったように、今日ここでできることはすごくありがたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。未熟ですので、どうぞ皆さんよろしくご意見などをお願いいたします。

**【事務局（村田）】**

ありがとうございました。

続きまして、本日、愛知県教育委員会から助言者として松本様にご出席をいただいておりますので、松本様からもご挨拶をお願いしたいと思います。

< 3 愛知県教育委員会あいさつ >

**【松本委員】**

愛知県教育委員会の松本と申します。

本年度も策定会議を担当させていただくこととなりますので、よろしくお願いいたします。保存と活用のバランスをとりながら、文化庁とも密に連携をとって、こちらに出席させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

**【事務局（村田）】**

ありがとうございました。

先ほど、4名の方に新たに委員に参加していただきますとお話をさせていただきましたが、本日、山本委員につきましては欠席のご連絡をいただいております。また、名和委員につきましては遅れるということでご連絡をいただきました。

では続きまして、机の上に資料を配付させていただいておりますが、資料の確認をさせていただきたいと思っております。

まず次第、片面1枚刷りです。それから（仮称）史跡センター 名称（正式名称・愛称）決定の流れについてと書いてある紙が1枚、それから小牧市（仮称）史跡センター展示設計説明書、それから史跡センター建設工事基本設計、それから史跡センター周辺史跡整備基本計画となりますが、よろしいでしょうか。

ありがとうございました。

では、この会議につきましては、小牧市審議会等の会議の公開に関する指針に基づきまして、公開の会議とさせていただきます。あわせて、議事録につきましてもお名前と発言内容ともに公開させていただきますので、よろしくお願いいたします。

本日、傍聴者の方はお見えになりませんので、ご報告をさせていただきます。

それでは、次第の4に移らせていただきたいと思います。

以下の議事進行につきましては、池田会長、よろしくお願いいたします。

【池田会長】

それでは、4番の報告事項ですが、それでは(1)から順番に行きたいと思いますが、まずセンターの展示基本設計について、事務局から説明をお願いいたします。

< 4 報告 (1) (仮称) 史跡センター展示基本設計について >

【事務局 (小野)】

報告(1) (仮称) 史跡センター展示基本設計について、事務局よりご報告申し上げます。

資料1、(仮称) 史跡センター展示基本設計 設計説明書に基づいてご報告いたしますので、そちらをご参照ください。

昨年度取り組みました展示の基本設計につきましては、前回の策定会議でもお諮りしました内容に基本的に大きな変更はございません。

2ページをご覧ください。

施設の設置位置、そしておよその形状を示させていただいておりますが、形状等、建物につきましては、後ほどの(2)建設工事の基本設計で詳しく述べさせていただきます。

3ページをお開きください。

展示の基本的な考え方としましては、展示の方針として、展示の基本方針、小牧山の多様性、アクション能動・参加型の展示であること、またインパクト興味喚起を促すものであることという大きな3本柱、そして展示空間の基本設計としましては、迫力、スケール感を持ったものであること、また今後も調査や整理が続いていくということをにらみまして可変性・更新性のあるものにすること、そして史跡内にこの施設が置かれているということを経験性として捉える屋内外への回遊性というものを大きく基本方針として定めさせていただいております。

6ページをご覧ください。

こちらが建物の中における展示の範囲を示させていただいたものです。基本的には前回お諮りしたものと大きく変わってはおりませんが、建築の基本設計が進むに当たって、柱の位置であるとか壁の位置などの構造がより詳細化されまして、このようにフィックスしましたので、こちらの図面でご確認をいただければと思います。

7ページをご覧ください。

こちらがエントランスの考え方になっております。真ん中に描かれておりますイラストは、正面玄関を入ってみたイメージということになります。半円形の空間をプランとしておりまして、真正面に常設展示室への誘導、そしてこのフロアそのも

ので基本的なガイダンス、史跡小牧山に初めて訪れた人が次にどこに行けばいいのか、お手洗いはどこにあるのか、そういった基本的なインフォメーションを得られる、そういった空間づくりをしていこうと考えている部分です。

8ページ以降につきましては、常設展示室の説明となっております。こちらにつきましては、前回の策定会議でもご審議いただきました内容をより深めた形となっておりますので、詳しく1つずつのご報告は割愛させていただきますが、前回の策定会議でご指摘いただきました内容については、ここで少し補足をさせていただきます。

10ページをご覧ください。

戦国の小牧というゾーンですが、一番下のキャプション、戦國小牧山をめぐる人々という一番右下にある見出しの部分ですけれども、こちらは前回の策定会議で、全国から小牧に来た人が、全国にいろいろある武将やお城について、小牧を経たという全国と小牧とのつながり、ゆかりがあることが分かるような展示をしてほしいというようなご意見・ご指導をいただきました。この戦國小牧山をめぐる人々といういろいろ武将などを取り扱う中で、日本地図などが出てきて、あなたの出身地の武将は誰でしょう、この武将が実は小牧にいたときはこういうことになっていましたというように、小牧と全国の地域がつけられるよう、ソフト面でつなげていこうと考えております。

続いて、14ページをご覧ください。

こちらがこの施設の常設展示の中でも目玉となるような1分の1スケールの石垣模型でございます。こちらにつきましても、単に山頂で確認されました石垣そのものをここで見ていただく、それがもちろん目的ではあるわけですが、この石垣が小牧山にあるということを説明するだけでなく、日本のお城の成り立ちを知る上で、この石垣がどうして一つのキーポイントになるのか、日本のお城の歴史の中で、土のお城から石垣を持つお城に変わっていく一種のターニングポイントになるんだといった、通史的な話、概念的なお話というの、映像などを交えた展示、解説の中でフォローアップしていき、より小牧山の史跡としての魅力というのをブラッシュアップするような内容を実施設計の中で組み込んでいきたいと考えております。

さらにもう1点、施設全体を通してですけれども、言語のご指摘をいただいたかと思っております。言語につきましては、常設展示室のエリアと、それから共用部分のエリアというのを2つちょっと分けて考えさせていただきたいと思っております。

というのは、共用エリアというのは、例えばお手洗いがどこであるとか、水はど

ここでとか、そういった一般的なインフォメーション、そういったものは、多言語と  
いうか幾つか、公共施設の指針に基づいた表現というのを考えていきたい。

ただ、その言語を全部そのまま常設展示室に持って行ってしまうと、言語パネル  
ばかりになってしまうというおそれもありますので、展示の担当者の中の話として  
は、見出しなどで英語表記を中心に、見出しを英語でやって、細かい説明につい  
ては、それこそパネル等、それからまたはホームページ等にアクセスするような案内  
を出すことによって、それぞれの言語による理解を深めていただく。

ただ、これに関しましても、日本の歴史の専門的な単語をそれぞれの言語に翻訳  
するというのはかなりの困難を伴っておりまして、ほかのお城であるとか歴史系の  
施設における取り扱いなども参考にしながら、実施設計の中で組めるものは組ん  
でいくことで、ご指摘の内容へのご対応とさせていただきたいと考えています。

かような姿勢をもって史跡センター展示基本設計が組み上がりましたことを、以  
上をもってご説明とさせていただきます。よろしく願いいたします。

**【池田会長】**

ありがとうございました。

資料1の展示基本設計の説明をしていただきましたが、ご確認、よろしいでしょ  
うか。

今の報告内容で何か分からないこと等、詳しい説明をお求めの方はどうぞ。

**【梶間委員】**

先回の資料に比べますと、随分と鮮明になってきていますよね。

**【池田会長】**

今ぱっと気が付かない方、後で思い出したときにということで、先へ進ませてい  
ただいてよろしいでしょうか。

それでは、次のところの史跡センターの建設工事の基本設計につきまして、事務  
局のほうからご説明をお願いしたいと思います。

#### < 4 報告 (2) (仮称) 史跡センター建設工事基本設計について >

**【事務局 (増田)】**

それでは、報告(2)(仮称)史跡センター建設工事の基本設計について、事務局  
からご説明をさせていただきます。

お手元の資料は、資料2をご参考いただきたいと思いますのでお願いをいたしま  
す。

まず建築基本設計につきましては、建物自体のコンセプトですとか、大まかな構

成、外観イメージの作成を目的としまして、業務を進めてまいりました。

今回、基本設計の成果品を資料としてご提示させていただきましたが、これは今までの会議においてご覧いただいております平面図ですとか立面図などの図面に加えまして、建設予定地がどのような土地であるかですとか、建設に当たって遵守する法規にどのようなものがあるかですとか、どのような設備が必要となるかですとか、そういった基本条件や関連法規、建築の計画などについてまとめたものとなります。

基本設計段階ではまだ具体的に記載することが難しい部分がございますので、幾つか抜き出してご説明をさせていただきたいと思っております。

まず資料2の5ページをご覧ください。

1-5 (仮称) 史跡センターの用途と、1-6 主な部屋の用途と書いてありますA4縦のページがありますが、ご覧のとおり、(仮称) 史跡センターそのものと各部屋の用途について記載をさせていただいております。

(仮称) 史跡センターは、史跡小牧山のガイダンス施設として、歴史や文化、自然など、史跡小牧山の魅力をお伝えするということを目的とした施設となります。

各部屋の用途といたしましては、常設展示等を行う展示のエリア、資料等を設置し、ご覧いただくようなエリア、レクチャールームなどのワークショップ等で利用するエリア、事務室等の運営方のエリアが大きく分けての用途となります。より詳細な内容については、また今後詰めていくこととなりますが、基本設計の段階におきましては、今ご覧いただいているような用途を想定しているのご理解をいただければと思います。

次に、資料の14ページをご覧ください。

1 計画方針といたしまして、小牧山の歴史や自然に調和した風景、曲輪や石垣のイメージを印象づける施設、遺構への配慮とタイトルがございますが、こちらでは建物そのものについての計画をどのような形で進めているかを記載しています。周辺環境との調和を図ることで、過去に存在した曲輪などをイメージさせる表現は、建物の外観に影響を及ぼすものであります。また、遺構に影響を及ぼさないようにするという事は、建物の構造に直結するような極めて重要な方針ということになります。(仮称) 史跡センターの建設におきましては、これらの方針を軸に据えまして基本設計を行ったということをご理解を賜りたいということで、記載をさせていただいております。

前後して申し訳ありませんが、次に資料の3ページをご覧ください。完成予想図と記載していますA3横のカラーのページになります。

こちらは建物の外観の想像図です。14ページの基本方針の2で、曲輪や石垣のイメージを印象づける施設ということで記載しておりますが、この想像図においては、建設予定地にあったと考えられる曲輪のイメージを、建物の高さや緩やかな屋根勾配を使って表現しています。

建物の高さで曲輪を表現すると申し上げましたが、実際にイメージ図をご覧くださいと、屋根が段々になっているのがお分かりいただけると思います。これは室内の展示物など、諸々の室内設備はそれぞれ必要な高さを求める条件が異なるため、想定される曲輪の高さを基準とした上で場所ごとに必要な高さを確保したために凹凸が出来てしまったとご理解いただければと思います。

そのほか曲輪等の表現に関しましては、植栽を利用した曲輪の範囲の表現などを、周辺整備との調整を図ることで、建物単独ではなく、一帯の環境を利用した表現として目指すこととしています。

そのほか石垣をモチーフとして屋根のデザインをしておりますが、そういったデザイン性に富んだ屋根や、素材や配色に配慮した現在の自然環境との調和を図っていくことなども特徴となっております。

次に、24ページをご覧ください。

こちらは建物内部の平面図です。前回の策定会議におきまして、女性用のトイレが少ないとのご指摘をいただいております。この件につきまして、女性用トイレのブースを3室から4室に変更させていただいております。あわせて、男性用トイレ、女性用トイレの配置を再度検討いたしまして、それぞれ十分なスペースが確保でき、かつ入り口から内部が見えないようなプライバシーの保護にも配慮した結果、現在の配置となりました。

それ以外は、基本的にはこれまでの会議でもご説明をさせていただいた内容とほぼ変わりがない状態となっております。

大変簡単ではありますが、以上で（仮称）史跡センター建設の基本設計についてのご説明とさせていただきます。ありがとうございました。

#### 【池田会長】

ありがとうございました。

それでは、何かもう少し詳細な説明を求められるところがありましたら、お願いします。

#### 【牧野委員】

資料を今見させていただいて、私はこの4月から人事異動で来ましたので、前の資料について1回ぐらいしか見ていないものですから、頭の中に残っていないので

すけれども、先ほどの資料1の話に戻ってしまいますが、今の建物に関して、色々な考え方で作られたことに対して、それは非常に良いと思うんですけど、展示で、建物に関してそういうコンセプトでこういう建物になっているよというような展示物というのは今予定されているんですか。必要かどうかということもありますが、それだけの思いを込めた建物ということであれば、建物に対する説明をする展示というのがあってもいいのかなというふうに思ったものですから、ちょっとその辺の確認をしたいんですけれども。

【池田会長】

この建築物そのものに関する説明文はどこかにあるかということですね。事務局お願いします。

【事務局（村田）】

ご質問がありました建物自体のコンセプト、曲輪を表現している、あるいは周りを植栽などで表現する、高さはこうだよということも、当然こういう建物をどうしてここにつくったかということを含めて説明は必要かと思います。解説文の設置場所につきましては、この建物の中なのか、あるいは屋外なのかを含めてまた今後検討していきますが、そういったものは設置する予定をしております。以上です。

【池田会長】

ほかにはよろしいですか。

(挙手する者なし)

【池田会長】

それでは、またこれも後でまとめてという形にしまして、ではその次の(3)史跡センター周辺史跡整備基本計画について、事務局から説明をお願いします。

< 4 報告 (3) (仮称) 史跡センター周辺史跡整備基本計画について >

【事務局（坪井）】

では、報告の(3)になります。

(仮称) 史跡センター周辺史跡整備基本計画について、ご報告をさせていただきます。

資料がA4判の横長、右上に資料3と書いてあるものになります。

こちらの資料のまず1ページをおあけください。表紙をはねていただいたところにあります。

こちらの基本計画につきましては、展示と建設にて報告させていただきました史跡センターを建てた周りをどのように整備をしていくかという、その方針を定めたものであります。

その計画地が、1ページの位置図にあります赤い線で囲った部分になります。計画地（1.17ha）と書いてある部分がちょうど史跡センターの建物が建つあたりになりまして、その北側は、現在あります青年の家のすぐ南側の林になっているあたり、西側につきましては、ちょうどバス停の西側から上っていきます主要園路、車が通れる管理用道路のあたり、東、南につきましては、現在整備して史跡公園としてある部分、その範囲になります。

この部分につきましてはかつて中学校がありまして、大部分がその校舎の建設によって壊れています。中学校跡地につきましては、平成13年度から15年度にかけて、3年間に分けて整備を行いましたが、その時点で今後史跡センターを建設するというようなこともありまして、この部分につきましては暫定整備ということで現在に至っています。

次に、12ページをお開きください。

右ページの昭和2年地形測量図、これは現在史跡センターを建てる部分、周辺整備の部分を含めまして、昭和2年の測量図にその位置を当てた部分であります。赤で囲った計画地となっている部分が、先ほどの1ページの赤で囲った部分に相当する部分になります。

ページが戻りますが、11ページをお開きください。

11ページの右側の図面、カラーで表現してある部分、先ほどからお話が出ておりますけれども、お城として使われた時期には曲輪、平場がありました。ちょうどその218と書いてある曲輪、小牧山の平場、曲輪に番号をつけておるんですけれども、その218と書いてある部分、その上に1段、2段と東西に長い段々畑のような部分があったというふうにイメージできるかと思います。そのような曲輪がありました。

その左上のところ、「手曲輪地区」と書いてある部分が現在の桜の馬場に当たる部分になります。そのように曲輪がありまして、その南側には黄色の線で表現してある部分、土塁が走っておりまして、その南側には水色の線で表現してある部分、南側には、また黄色で表現してありますけれども、土塁、曲輪がありまして、その南側には土塁、堀、土塁というような遺構がかつてありました。南側の堀と土塁につきましては旧庁舎、昨年度地形の復元を行っておりますけれども、その部分まで延びていた土塁と堀になります。

15ページをお開きください。

現況の測量図に合わせまして、遺構の配置を当てはめたものです。曲輪218と書いてある黄色い部分、ここが主に史跡センターが建つ部分ですけれども、曲輪とその南側の土塁と堀と土塁については、そのような位置関係になります。

その図で分かりますように、現在の主要の園路につきましては、堀の部分を埋めて、主に下半分ですけれども、園路をつくっているということになります。その園路が、旧本庁舎があった部分と今度史跡センターを整備する部分につきまして、ちょうど分断している形になります。

17ページをお開きください。

このような状況、現況を含め、この部分の整備の方針として定めたものでありますが、この部分につきまして、できる限り当時の遺構を復元して表示していくことを基本とする考えがあります。まず方針といたしましては、その整備の時期設定は、基本的には天正期、小牧・長久手の合戦の時期のものとし、小牧山全体がこの時期を基本として整備をするということに定めておりまして、その前段階に当たります永禄期の遺構につきましては、できる限りその部分を表現するというようになっております。

先ほどご説明いたしました、史跡センター建設予定地の周辺は中学校の造成によってほとんど遺構が残っていない部分ですので、手がかりとなりますのは昭和2年の地形測量図になります。それをもとにお城の遺構である土塁や堀、曲輪の復元・表示などを行っております。まだ一部土塁が残る可能性がある部分がありますので、その部分につきましては今年度発掘調査を予定しており、その状況によってはまだ計画が変わる部分、見直しを行う部分も出てきます。

これらの整備方法は、現在史跡公園として公開しております中学校跡地の整備と同様な手法で行う予定をしておりまして、そことも一体性を持たせた整備をしていく考えであります。

そして、もう1つ大きな計画といたしまして、現在あります管理用道路、こちらを廃止いたしまして、史跡センターの南側、土塁に沿わせた方向に通路のつけかえを行う計画を持っております。

あと、史跡センター建設予定地と青年の家の間に傾斜地がありますが、こちらは結構斜面の風化等が進んでおりまして、部分的には垂直に近いような斜面になっておりますので、この部分につきましても補強して安定化を図っていくことを考えております。

では、46ページをお開きください。

こちらの図面が整備の計画図になります。史跡センターが建っておりまして、そ

の周りですね。現在、アピタの北側のところに入り口がありますけれども、その部分、ちょうど図面の一番右下から園路を入りますと、現在も左に曲がる園路があります。この部分を管理用車両が通れるようにしますので、幅を広げ、また、途中で史跡センターの入り口に通じる通路を設けます。史跡センターの東側につきましては細かい通路も設けてあります。道路がずっと桜の馬場の現在ある道路につながるように配置いたしまして、その南側には土塁を復元するという事です。

そして、史跡センターを建てる部分にありました曲輪、表示ですけれども、ちょうど史跡センターの建物の西側、ちょっと黄色い部分がありますけれども、その部分にちょっと黄土色といいますか、茶色い線が引いてありまして、途中で史跡センターの裏へ行くところから緑に変わるようになっています。さらに、史跡センターの建物の裏側には細い緑の線がつながっているのがありますけれども、こちらは曲輪の形を表示した部分です。舗装した部分につきましては、舗装の色を変えることによって曲輪の形を表現する、舗装していない部分については、緑色の部分ですけれども、植栽を植えることによってその形を表現するというようなことで、遺構の復元表示を行う考えでおります。

あと、部分部分で解説板や案内板を設置して、来訪者に分かりやすくしていくということを考えております。

史跡センター周辺の史跡整備の計画につきましては以上です。

#### 【池田会長】

ありがとうございました。

それでは、3つとも説明をいただきましたので、もう少し詳しくお聞きになりたいところとか、ここが不明だということがございましたら、挙手をしてお願いしたいと思いますが。

#### 【速水委員】

どこで聞いたらよかったのかというのがよく分かっていなかったものですから、今発言させていただきます。

小牧山城が日本で多分最初の石垣づくりのお城ということ、できれば明確にアピールできたらいいなあと、こんなふうに思っています。

そのときに、今までの表現といいますか説明では、そこら辺が奥歯に物の挟まったように感じる。日本で最初の石垣づくりのお城なんだというPRというのか、これをどの段階だったらできるのか、いわゆる認定基準というのか、認定時期といたらないのか、あるいは判定時期、基準、そういったものが何かあるから今は明確に言えないというのであれば、それがどんな条件を満たせば言えるのかというのが、

まず1つ目の質問。

それから、やっぱりそういった日本で最初の石垣づくりの城というものを、これはこの場で言うことではないかもしれませんが、やっぱりPRする方法を一生懸命、このセンターでもそうですし、ありとあらゆる方法でPRできるといいなあと、これは私の意見です。

【池田会長】

それでは、まず、最初の石垣の城だということが明確に言えないのは何故かということ。そして言えないまでも何か、私的でもいいですが、最初の石垣の城だということのPRの方法を何かお考えでしたら、それを少し言っていただきたいという2点ですが、まず言えない理由で、お願いします。

【事務局（小野）】

では、日本で最初の石垣であるというふうに断定できるのはどういう基準なのか、どういう段階になったらできるかというご質問について、すみません、私は発掘や歴史の担当なので、歴史からだけで申し上げたいと思いますけれども、結構シビアな話でして、最初の石垣かどうかというのは、今後も各地でお城の発掘とか城館と言われるお城の前段階の遺跡とかが発掘されていく中で、もし出てきてしまえば、それが最初になっていく、さかのぼっていく可能性というのがあるものですから、今をもって、今だけの情報で一番古い段階のものであるからそれで固定してしまうというか、言い切ってしまうということは、歴史とかそういったものを扱っていく、文化財を扱っていく上では、ちょっと慎重にならざるを得ないのかなと思っております。

当然、出てきた小牧山城の石垣についてのさまざまな評価、検討というのは今後とも加えられていくことになりますので、じゃあ5年検討を加えたのでそれで決まりましたとか、そういうことにはなかなかならないのかなと。しかも、それは小牧市や小牧山城のことだけではなく、全国の情報というか成果が加わっていくことになろうかと思っておりますので、もちろん信長の手がけたお城の中では今一番古い石垣づくりのお城だということは言えるわけですが、これも例えば信長はその前にいた清洲城というお城がありますが、そこでもし仮に発掘調査とか、今後資料が増加したときに、そこに石垣があったなんていうことが分かれば、一気に最古とか最初ということが言いにくくなってしまふ。

それよりは、やはりPRという側面ですと、最古であるとか、最初であるとか、最大とか、そういったキャッチーなものというのは当然必要だということは十分認識はしていますが、それだけじゃない価値とか、小牧山城の重要性というのはたく

さんありますので、そういったキャッチーさと、それから本質といったものの区分はしていかないといけないのかなと。

これは半分以上私の個人的な考えかもしれませんが、そう思っています。答えになっているかどうかですが。

**【事務局（浅野）】**

次のPRにつきましては、先ほど展示基本設計の説明の中で小野が申しましたが、建物自体に可変性があるという中で、ただ発掘をやっていく中で、あるいはほかのところを含めてですけれども、センターの中では、いろんな情報が明らかになった段階で常に可変性を持たせて展示内容を変えていくとか、情報を発信するというのもやっていきますし、市としてもホームページですとか、フェイスブックだとか、いろんな情報誌等々にそういったもののPRをしていくということで、常に新しい情報を発信していきたいなあというふうには考えております。以上です。

**【池田会長】**

ありがとうございました。

何か、速水さん、ご意見。

**【速水委員】**

歴史上、本当に小牧山城が最初の石垣づくりの城かどうかというのは、これは誰にも分からないことですよ。今まで定説になっているのは、安土城が日本で最初の石垣づくりの城だということで、みんなそれで定説になっているわけです。小牧山で発見されたら、それがひっくり返るのが当たり前ですよ。だから、ひっくり返るまで、日本で最古の石垣づくりの城ってPRしたらいいだけの話だと思うんです。何でそれができないのかというのが、私はよく分からない。それをやっぱり大々的にPRしないとまずいと思うんですよ。

いろんなお城へ行ってバスガイドさんに聞きますけど、やっぱり誰も日本で最初の石垣づくりの城は安土城と言うんですよ。私が違いますよと言って、ああそうですかという、そこで初めて小牧という認知が得られるわけで、やっぱりそれは次に新しい違う事実が発掘されるまでは、PRしたらいいと思うんですよね。それができるのかできないのかというのを知りたいんですよ。

**【池田会長】**

慎重になるわけですよ。

**【事務局（小野）】**

追加ですみません。

当然、歴史的な事実はそのやっちょと慎重にはやっていきたいと思うんです

けど、安土城が石垣づくりのお城の最初だというふうに今広く認知、定説化しているというのも、今は止まってしまっていますが、大体平成の最初ぐらいから20年間かけて滋賀県が安土城を発掘調査し、その成果によってこれはすごいと、日本の石垣というのは安土城から始まるんだということについての調査を地道に続けてこられて、またその後いろいろ安土城考古博物館ですとか、さまざまなPR等をされてきた中で、ようやく全国に浸透するということになったわけですね。

恐らくそれは小牧もその例に倣うといったら変ですけども、やはり一朝一夕にそういった定説とか認知というのが広がるわけではありませんので、安土城さんがかつてやられたような形で発掘調査や整備というのを地道に続けていく、そしてそれをPRする、このような史跡センターに代表されるようなPRであるとかガイドンスというのを続けていくことによって、徐々に浸透していく、時には大きなイベント等を行うことによって、小牧とか小牧山城という名前を広く知っていただくPR方法というのともあわせてやっていくというのは、当然今後も考えて取り組んでいきたいことだと思っております。よろしいでしょうか。

#### 【池田会長】

速水さんとしてはちょっと納得がいかない、やっぱり最初のということが言いたいかと思いますが、安土城よりもこちらのほうが古かったと言うならば、最初だと言うと後で何か支障が出るかもしれない、こちらのほうが安土城よりも何年前ですという形をもっとはっきりと、センターができたときの平成何年現在ではここが一番古いという言い方で書くよりしようがないんじゃないですか。

それを、その後また変化があったときはそのときで、さらにそのとき加えて最近はこの発掘で出てきましたというのを言えばいいので、とりあえずそれをどこか一文展示の中に入れて、観光協会としては、それをもって現在一番古いんだよということを言ってもよろしいかということですよ。言っていく形にしていきたい、PRしたいということなので、とりあえずほかの名乗りを上げるまでは観光協会が使わせていただくという方向というので、一応この策定委員会ではそのようにしていきたいということよろしいでしょうか。

すぐくまずいよと、そういうことをしてしまったのではというのがあれば、訂正をかけていきたいと思うんですけど、特に無ければ、1回ぐらいすごく気持ちのいいことをしてもいいんじゃないのかと。

ただ、いろいろな難しい点もありますが、とりあえず安土城も平成になって20年間かけて今一番古いということになってきますので、小牧山も20年近くかければ一番古いということが基本的に浸透するんじゃないかなという考えを持っています。

観光協会のほうでは、当面使えると思いますので、ということでよろしいですか。

【速水委員】

はい。

【事務局（小野）】

はい。

【池田会長】

ということで、そちらのほうは終わりたいと思いますが、ほかに説明をもう少しというのがあれば。ないでしょうか。

【牧野委員】

資料の35ページなんですけれども。

【池田会長】

資料3のですか。

【牧野委員】

3のです。

雨水排水計画については、これは基本設計ですのでこの程度かなとは思いますが、以前中学校がありましたので、それだけの状況はあったと思うんですが、今回、今よりは相当大きな面積を、また水が出やすいというか、雨を受けてそのまま流す形にするということで、趣旨的には流すことのみには捉われていると思うんですけど、実際にこれだけ結構きつい斜面のところできこういった側溝等を設置して、ちょっと大きな雨が降ると大丈夫かなあということとか、そもそもどれだけ流していいのかという観点、いわゆる阻害行為というものがあるんですけど、そういったことが対象になるのかならないのかということも、調査されていけばいいんですけど、この辺、実施設計の中でももしそういうことがやられていないのであれば、確認していただいたほうがいいのかと思います。以上です。

【池田会長】

ありがとうございました。

雨水の問題は、鉄砲水とは言いませんけど、崩れてくると怖いという、山自体が。

【牧野委員】

そうですね。今はよくなりましたが、実際過去には西側のところ、県道側が相当浸水しているということもありましたので。計算上必要な能力のある水路を入れられるんですけど、時にはとんでもないゲリラ豪雨があるものですから、計画路に沿って当然配置するんですが、それ以前に本当にそれだけ流していいのかどうかということですよ。阻害行為にならなくなると、ためなきゃいけない、沈下させなき

やいけないという話になってきますので、流せなくなるんですね。その辺の内容が、今のこの35ページからの資料には特にそういう表記はされておられません。流域を変えないということだけしか言われていませんので、流す量を変えないよというような表現がされておればまだいいのかなあという思いがあったんですが、いずれにしても県に担当部局がありますので、ちょっと確認をしていただけるかなと思います。以上です。

**【池田会長】**

これは確認をお願いしたい。

ほかにないですか。

今本当にゲリラ豪雨で怖いので、これ出てくるとね。

ちょっとだけ説明を詳しくお願いしたいんですが、いいでしょうか。ほかのご意見がなかったら。

一番最初の展示計画のところの、外国語は一体どこからどの言葉を頭に置かれているのか、決まっていることなので教えていただけるとありがたい。英語と何とか語と何とか語という。

**【事務局（小野）】**

具体的に何か国語にするのかということも含めて、まだ詳しくは。複数やるということまでは考えてはいますが、どれとどれ、ということも。一般的にという話で聞いているのは、英語、それから中国語、ハングルです。

ただ、小牧市の特性もございまして、スペイン語等の表記というのも考えていかなければいけないのかなと。共用スペースにつきましては、市民会館等、先ほど言ったこの市での表記の仕方というのがありますので、恐らくはそれに倣っていくことになろうかと思えます。

また、常設展示エリアにつきましては、最近の動向ではということで情報提供があったんですが、最近は逆に中国語と韓国語の表記が外れていく傾向にあるそうです。私は増えていくんだと勝手に思っていたので、3カ国語ぐらいですかねということで検討はしていたんですけども、英語表記に絞られていっているというような最新の動向等も情報提供がありましたので、そのあたり、時代おくれにならないようにということのも平たい言い方ですけども、最新の動向に合わせて使い勝手のいい表記にしていきたいと思っております。以上です。

**【池田会長】**

英語、中国語、ハングルとスペインですか、ブラジルはポルトガル語ですよね。

**【事務局（村田）】**

補足をさせていただきます。

多言語表記につきましては、シティプロモーション課で多文化について推進しているところなのですが、恐らく表示自身は最小限のものになってくるかと思いますが、例えばルーブル美術館のように、入り口のところに日本語のパンフレット、ポルトガル語や中国語のパンフレットという、きちんと中身を説明したものの作成を考えておりますので、途中で需要がふえればその言語のパンフレットを増やしていくということで対応できればとは考えております。

**【池田会長】**

共用施設のところに関しては、英語、中国語、ハングルの表記ということですよ。最低限、出口と入り口とトイレぐらいだと思うんですけども、そこは分かるようにということで、結構ここはブラジル、ポルトガル語の人が多いので、そのところだけ、多分この4つだと思います。

**【事務局（村田）】**

多分、小牧市で一番新しい建物というと市役所だと思うんですが、市役所では絵で表記しています。このように小牧市内全体として絵で表記するという形が大きな流れであるということと、例えばポルトガル語とか、南米系の方につきましては、ポルトガル語の表記でなくても、ローマ字であったり、やさしい日本語であったりという表記が、今その多言語の表記の仕方としてはかなり進んでいる表記の仕方というふうには聞いております。

**【池田会長】**

はい、分かりました。よろしくお願いします。

先ほどの史跡の最後の3のところ、緑のラインで何か曲輪を表現する、色は緑と言われた、それは植物でということでしょうか。46ページのところで、図面上、緑の線で曲輪の何か線を示すとおっしゃいましたよね、私の聞き間違いかもしれないですけど。緑というのは、植物か何かが入るのか、ラインなのか、どちらですか。

**【事務局（坪井）】**

図面で緑を表現してある部分は、植栽によって表現をする計画です。

**【池田会長】**

低い植栽や、低木ですか。

**【事務局（坪井）】**

そうです。まだ樹種までは、これからまた実施設計の中で決めることになってきますけれども、表示ですと、そんなに高いと分かりにくいというところもあると思います。

【池田会長】

分かりました。じゃあ、この緑というのは、このライン上に大分長いところを何かの植物でという形ですね。

【事務局（坪井）】

そうですね。

【池田会長】

はい。ありがとうございました。

植物が何かなどに関しては、実施設計で出てくるということですね。

それでは、特にないようでしたら、報告事項に関してはこれで終わらせていただきます。続きまして5の議題、現在仮称になっております史跡センターの名称につきまして議論をお願いします。まずは事務局から説明をお願いいたします。

#### < 5 議題 (1) (仮称) 史跡センターの名称について >

【事務局（浅野）】

お手元の資料、A4、1枚で、資料4と右上に小さく書いてあると思いますが、こちらをご覧くださいと思います。

議題(1) (仮称) 史跡センターの名称についてです。

まず1番としまして、今後の(仮称)史跡センターの名称決定についてですが、これまで(仮称)史跡センターということでやっていたけれども、いよいよ正式名称を、今後現状変更ですとか、そういった申請の中には必要になってくる、あるいは各種図面等々でも必要になってくるということで、決定していきたいというものになります。

まずスケジュールとしまして、本日5月9日ですが、この会議で正式名称の候補を、できましたら1位から3位ということで優先順位づけを行って、決めていただけたらと思っております。

それをもとに、7月上旬ぐらいまでかけまして、文化庁等々と協議を得まして、正式名称を市として決めていきたいと思っております。それを、予定ですが7月中旬ごろ、またこの会議を開かせていただきまして、決定内容を報告させていただく。

それから、あわせて8月上旬からになりますが、決まった正式名称に対する愛称を公募していきたいというふうに考えております。公募を開始いたしまして、8月いっぱい、夏休み終わりぐらいに応募を締め切りまして、選定をしていくと。10月上旬ごろには、この愛称が決定していくというような流れを考えております。

それから、2番、正式名称の決まりということでございますが、文化庁と協議を

していった中で、今のところ「史跡小牧山」というものを必ず入れてほしいというようにご指摘をいただいております。この点につきましては、例えば「史跡」を外した「小牧山」だけではいけないのかということも、また改めて文化庁に確認をさせていただきますが、今のところお聞きしているのは、「史跡小牧山」というものを必ず正式名称に入れてほしいということですので、お願いしたいと思います。

それから、3番、名称の例ということで、事前にお配りしました資料に、事務局で考えました、本当に案ですが、AからIまでつけさせていただいております。Aの史跡小牧山ガイダンス施設からIの史跡小牧山展示体験館ということで、例えばこのような形で史跡小牧山何々ということをつけていただけたらと思っております。今回お示しさせていただいた案以外にこういったものがないんじゃないかというものがございましたら、この場でご協議いただきまして、本日、1位から3位の優先順位、この会議としてはこれがいいんじゃないかというものを決定していただきたいと考えております。以上になります。

**【池田会長】**

ありがとうございました。

それでは、どれがよろしいか、何かご意見がございましたら。

**【渡邊委員】**

「情報」ですよね。史跡小牧山情報センターだとか、「交流」というかそういうものでも、EかFぐらいでもいいんじゃないかな。それか、腹案がありましたら。最初から腹案ではいけないとは思いますがけれども。そういう流れからいきますと、EかFかなあと私は思いますけれど、いかがでございますか。皆さんにお聞きしていただくことでしょうけれど。

**【池田会長】**

「交流」とか「情報」とか、そういうものが入っていたほうがいいのかというご意見。「史跡小牧山」というのはみんな一緒なので、これはつけなきゃいけない。その後のところで、例えばHのただのセンターではちょっと分からないので、こういうものではなくて、一応何かそこに「情報」なり「交流」なりが入っていたほうがいいんじゃないかなということですね。

**【速水委員】**

これは私の意見ですがけれども、できれば「史跡小牧山」の後に「魅力」というのを入れて、それを発信なのか、体験なのか、あるいは展示なのか、何でもいいんですけど、史跡小牧山魅力何とかセンターか、あるいは何とか館というような、そういう名称のほうが私は好きだなという個人的な意見です。

【池田会長】

「魅力」を入れましょうということですが。

ほかにご意見はどうですか。

【藤岡委員】

大前提の関係のことなんですけど、「史跡小牧山」という言葉自体のことで、「史跡」という言葉と「小牧山」という言葉さえ入っていればみたいな、そんな解釈は文化庁は通らないんですかね。というのが、Hの史跡小牧山センターじゃなくて、小牧山史跡センターみたいな、そういう表現でできないのかなとふと思ったものですから。

【事務局（松本）】

そちらについて補足させていただきます。

たしか昨年度に文化庁に伺ったときには、正式名称が「史跡小牧山」だから、この名称を入れるようにというようなことでお話をいただいていたと記憶しています。確認はさせていただきますけれども、「史跡」を入れるということであれば「史跡小牧山」の順になると思います。行政文書も全て「史跡小牧山」で通しているのです。

【藤岡委員】

分けて別々にみたいなことはできないということなんですね。

【事務局（松本）】

そうですね。ほかのところでも、例えば保存活用計画などをつくる際にも、史跡〇〇保存活用としています。〇〇史跡保存活用計画はだめだということでお話をいただいていますので。

【藤岡委員】

分かりました。

【池田会長】

これ「史跡小牧山」と頭に全部ついているんですけど、頭でなければいけないですか。後ではいけないでしょうか。ウエルカムセンター史跡小牧山のように変えてはいけないのですか。

【事務局（松本）】

頭でなくても大丈夫だと思います。

【池田会長】

どこかに入れればいいということですよ。

【事務局（松本）】

はい。

**【池田会長】**

そういう考え方だということです。

一番上のガイダンスというの、本当に誘導施設というそのままなので、この「ガイダンス」という言葉はどうかと思いますけどね。中に入ればガイダンスが必ずあるということになるので、そうなればそういうものも含めてここにあるという形でいくのか、ガイダンスだけなんですというように強く出るのか、どちらかですよ。

**【前原委員】**

小・中学校の代表の関係でいうと、僕も「ガイダンス」というのが入ってしまうと、小学校のちっちゃい子は訳が分からないと思います。

それから、小・中学校の立場でいうと、基本理念もあるんですけども、情報発信拠点であり、交流拠点であるということであるので、僕は「交流」という言葉がどこかにあるといいのかなあ、ちっちゃい子でも分かるので。何につくかは分かりませんが。

「体験」というのも捨てがたいんですけども、必ずしも体験じゃないパターンの方も見えるので、ちっちゃい子たちは体験施設があるので、多分そこへ入ってやると思うんですけど、「交流」が捨てがたいかなと、勝手な意見ですけど。

**【池田会長】**

いやいや、そういう意見をおっしゃっていただいて。

ほかに。

「交流」という言葉と、それから「情報」、インフォメーションというのは……。

**【前原委員】**

「交流」の中には、小・中学校の子も歴史との触れ合いとか交流、出会いというものもあるし、おじいちゃん、おばあちゃんたちとの歴史、史跡を通しての交流もあるわけだし、ほかの国の方との交流もある。そういうことも含めていいなと思ったんです。

**【池田会長】**

Eの例えば情報センターというのは、インフォメーションと間違えられる、インフォメーション以外で、何かあるかなと思って小牧山に来た人たちに、ここで最初のおもてなしをするみたいな意味合いが少し入ったほうがいいかなあとは思っているので、ガイダンスとインフォメーションはここに必ずありますよと。だから、絵柄としてはインフォメーションの絵柄とかガイダンスの絵柄はあった上で、なおかつここは皆様を最初におもてなし、小牧山のおもてなしをするところですよという意味合い

が少しあったほうがいいのかな。余りたくさん言葉が入ると大変なので、「史跡小牧山」は置いておいて、これは必ず入るので、その後に何を入れるかということなんですが、Hはちょっと意味が分からないです。

【速水委員】

これは、今日ここで1位から3位まで決めて、それでその案で文化庁との協議で決まるんですか。

【池田会長】

というふうに聞いておりますが、とりあえず。

【速水委員】

ほかの人というのはもう全く抜きで、だからここでの討議は非常に責任があるということですよ。

【池田会長】

というふうに私は理解してたんですけれども。少なくとも、3つ持って行って、あとは文化庁の指導を受けるという形だと思うんですが。

【速水委員】

先ほど「魅力」という言葉を入れてほしいなあと言ったんですが、要は一般的に行きたくなる建物の名称、興味をそそられるというか、何かそんなようなイメージがあるといいなという気持ちがあります。そういった意味合いでいくと、史跡小牧山おもてなしセンターぐらいがある意味ではおもしろいなと。

【池田会長】

今の流行語ですから。

【藤岡委員】

よく分からなくなっているので確認したいんですけど、仮にDならDになったとして、ただ上の1番の8月のところにあるように、さらにこれに愛称候補が入るので、つけ足すような形が正式名称のような形になるというような、普段は愛称で呼ぶんですが、でも施設の名前としてはDになるというような、そういうイメージで捉えればよいということによかったですか。

【池田会長】

事務局としてはどっち、愛称を前面に出していくのか、お願いします。

【事務局（村田）】

言ってみれば、正式名称は条例上でかちっとしたものがつく名称になってくるものというふうにお考えいただければいいかなあと。愛称は、例えば小牧岩倉衛生組合のごみ焼却場も、かちっとした名称の中にエコルセンターという名称がありま

す。エコルセンターというような言い方をして多分視察に行ったりとか、社会見学に行ったりしていると思うんですが、そういうふうには愛称が主として出ていく形、行政文書的なものでいうと正式名称が出ていくというようにイメージしていただくといいかなあとは思っております。

だから、パンフレットなんかをつくると、小さく漢字で何とか、かたい名前、小牧山ガイダンス施設みたいなのがあって、その下にみんなから募集した一つのかわいらしいのか、魅力のあるというのか、そういう名称がついてくるというふうに考えていただければいいのかなと思っています。

**【池田会長】**

そうしますと、やっぱり内容をきちんとここで出すような名称じゃないといけないということですよ。

**【藤岡委員】**

そういうことからすると、例えばおもてなしだとかというような言葉をつけたほうがというのはむしろ愛称のほうであって、中身をかちっとさせるためには、その部分だけで限定して考えればよいということでもいいわけですよ。

**【事務局（村田）】**

そうですね。そこにこだわる必要はもちろんないんですが、あくまでこの施設は何の施設だというのが分かったほうが分かりやすいのかな。物すごい極論で、これは小牧山のことを案内する施設ですよ、紹介する施設ですよというようなことが名称として。ここがかちっとしていても、愛称のほうでおもてなしセンターであったりとか、おもてなし館であったりとか、そんなものが出てくる可能性は十分にあるとは思いますが。

**【梶間委員】**

そうすると、Bぐらいが該当してくるかなあ。

**【池田会長】**

そのような日本語だから、「館」でもいいわけですよ、「センター」ではなくて。

**【梶間委員】**

「センター」ではなくしたいということでしたら「館」。順位になってくると、複数選ぶということですから。

**【池田会長】**

そうですね。中にあるのは、小牧山の紹介ということですよ。何を紹介しているかということ、主に歴史ですよ。それから、歴史がいっぱい、石垣とか小牧山城

ということになってきますよね。そうしますと何が、交流……。

【事務局（村田）】

あと、ほかの施設で、例えば西部コミュニティーセンターが正式名称で、ゆう友せいぶという愛称がついていたりとか、南部コミュニティーセンターという正式名称で、ふらっとみなみという愛称がついていたりというのもあります、一つの参考例として。

【梶間委員】

要するに、正式名称とニックネームとは違うということだね。だから、正式名称は文化庁と話しして決まったものでいいと思うんですよね。それで小牧山のきっちゃんとか、そういうのでいいんですね。

【池田会長】

それは、8月からの愛称公募のときに出てくる、それで決まります。

【梶間委員】

だから、募集するのは愛称でいいんですよね。

【池田会長】

募集で、今ここで決めるのは正式な名称を決めたいということです。

【梶間委員】

そうです。

【梶間委員】

小牧山について全てのことをご案内しますよという。とにかく3点早く決めないといけないかもしれませんね。

【池田会長】

中にあるのは、結構歴史的な内容が多いということですよね。割合として多いのは。でも、歴史館というのが山の上にあるので、そこの兼ね合いも一つあるので、ただ史跡小牧山の歴史、ないしは情報の紹介施設ということですよね。ここに入れば、例えば史跡小牧山の中の誘導をするような施設、全体を誘導していくような施設とはちょっと違って、やっぱり小牧山の過去から現在までを体験というか、目で見てもらいましょうというような施設だと思うんですよね。その上で、実際の小牧山をその後体験に行ってもらいましょうという最初の入り口ですよね。

史跡小牧山の歴史ということでしたら、史跡小牧山史ではいけないんですか。歴史の「歴」が要りますか。史跡小牧山史、歴史の「史」だけ。そういうことじゃないんですか。それとも「歴史」としたほうが良いですか。やっぱり中の展示で一番大きいのは史跡小牧山の歴史ですものね、何だかんだいって。だから、歴史という

のを投げ出すわけにいかないから、ぱっと見て何をやっているかが分からないといけ  
ないので、そうすると「歴史」というのがちょっと消せないかなあと思って。紹  
介のところを見てみたって、ほとんど歴史になっている。多様性などもいろいろあ  
るんですが、まず部屋に入ってガイダンスしてというところだと、まずは小牧山の  
歴史と変遷と書いてあるから、戦国時代から全部こうですよ。

あくまでも小牧山というものの歴史だというのが一番大きいところで、歴史館と  
いうのは小牧市全体の歴史館ということで、少しその差別化が分かるような名前に  
しないといけないのと、ここにまた「歴史」を入れると上との関係がちょっときつ  
いので、「歴」をとって史跡小牧山史ぐらいにしておいたほうが分かるかなあと思  
ったんですけども、何か一応歴史のことをやっているというところが少し見た人  
に字面でぱっと分からないというところがあるので、そうすると単なる情報センタ  
ー、インフォメーションセンターではないということ。

**【梶間委員】**

先ほど前原先生も言っていたように、「ガイダンス」というのが子供たち  
に分かるような、分からない子もいるから、やっぱり日本語のほうがいいかなあ  
というふうに先生も言ってみえますから。

**【池田会長】**

確かに自然のことも書いてあるんですけども、やっぱり「自然」を入れちゃう  
と、ここに行けば物すごくたくさん小牧山の自然がばあっと分かっちゃうというふ  
うにイメージを持ってもらおうとちょっとまずいかなあという。多少なんですよ、  
小牧山の風景とか、小牧山に関するいろんなことがここで紹介されているという  
ところで、特に戦国時代だとか、城下町だとか、石のお城になっている小牧山のそ  
ういうことがよく分かるということで、あくまでも小牧山の歴史ですものね。小牧山  
史ですよ、やっぱりこれ。

**【梶間委員】**

とにかく3点だけ選んで持って行っていただく形ですから。

**【池田会長】**

そうですね。この中でも、外でもいいです。ちょっと何か意見があれば入れてい  
きますけれども。

**【梶間委員】**

じゃあ、Gの「歴史自然」という「自然」を消したら、史跡小牧山歴史交流館。

**【池田会長】**

一番あれかなあというところですよ。ここら辺ぐらいかな。

**【梶間委員】**

ほかの先生方のご意見も。3点ということで、残りを。この中からということじゃなくて結構ですからね。

**【沖本委員】**

Iの「展示」を「歴史」にかえて、歴史体験館。

**【池田会長】**

史跡小牧山歴史体験館。確かに体験できますよね。

**【藤岡委員】**

Eのところのちょっと変えたことで、史跡小牧山歴史情報館あたりでどうでしょうか。

**【池田会長】**

3つ、これでいいですか。1、2、3番とちょっと後で、史跡小牧山歴史情報館か、史跡小牧山歴史交流館か、史跡小牧山歴史体験館。

**【渡邊委員】**

例えば、名称の例がAからIまでですね、この範囲だったならば、文化庁との話し合いはオーケーということになるわけですか。そういう意味ですか。

**【池田会長】**

どういうことですか。文化庁との話し合いですか。

**【渡邊委員】**

はい。

**【池田会長】**

一応これは例として書いていたので。

**【渡邊委員】**

例なんだから、これは文化庁もこの範囲程度ならいいということなんですよ。

**【池田会長】**

いいということだと思います。よろしいでしょうか、そういうふうに考えて。

**【事務局（浅野）】**

あくまでもこれは例でして、「史跡小牧山」がついていれば、それ以降はどのようでも結構なものですから、今出していただいた意見でも結構ですし、全く違うものでも結構ですよと。あくまで、ここにAからIとあるのは、事務局で考えた例ですので、これじゃなくちゃいけないというわけではありません。「史跡小牧山」というのがついていれば大丈夫です。

**【渡邊委員】**

「史跡小牧山」が入ればいいということなんですね。

【池田会長】

はい、そういうことです。

それで、ここは結構歴史的な内容を展示しているのが多いので、史跡小牧山の歴史の情報館なのか、交流館なのか、体験館なのかというようなことがお言葉として今出てきたというのが3つぐらい上がってきたんですけども、ほかに何か。別に順番を決めるわけじゃないんですけど、ほかに何か、ちゃんとこれは絶対入れたいという、言葉としてここに入れておきたいというものがあれば、そういうふうに、この字面を見ただけでここがどういう施設かということがぱっと分かればいいような、そういう名称ということですね、今考えているのは。後、また愛称がつかますので、そのときに。

【梶間委員】

ニックネームは、もう完全にこういう内容のことだということで、どういう名前が出てこようと、ここでこれでしょうといったら、それは自由に決められるわけですね。

【池田会長】

はい。

だから、今ここでぱっと見て、この建物はこういう内容の中にあるんだよということが分かるという名称を出してくださいということなので、「歴史」が入るべきなんでしょうね。

ただ、歴史の、こちらは情報を出すのか、交流をするのか、体験をするのかというところなんですけれども、体験できないんじゃないということ言われちゃったんで、バーチャルで、それを体験というのかと今ちょっときついで。

そうすると、「歴史」まではいいので、その後何をつけるかということで、「交流」なのか「情報」なのか。その3つ、どうですか。ほかに何かを加える。

(挙手する者なし)

【池田会長】

ということで、3つ、よろしいでしょうか。

その3つでとりあえずこの案として出して、あとは文化庁との折衝でお任せしてという形に。どれを見ても、ここに小牧山の歴史の情報だとか、歴史が出されているということが分かるということで、よろしいでしょうか。

【事務局（村田）】

確認させていただきますと、「史跡小牧山歴史」までは一緒に、「館」も一緒に、「交流」「体験」「情報」の3つのうちから選ぶということですね。

【池田会長】

というふうに今なっています。

【事務局（村田）】

優先順位があれば、皆様に優先順位をつけていただいてもいいですし、協議の中でお任せしますというお話であれば、お任せいただいても結構ですし、その辺のところもまたあわせてお願いします。

【池田会長】

それじゃあ、その後「交流」と「情報」と「体験」、どれを優先順位をつけるかということにご意見ありますか。

【梶間委員】

情報を発信するんだという「情報」が1番かな。どうでしょうかね。いろいろなことを子供たちにも発信したい。そして、昔はこういうふうだったんだということもこれで体験できるのか。子供たちだけじゃないけれども、子供たちにより分かりやすくしたほうがいいかな。

【池田会長】

学校側から、小・中学校から何かありますか。

【前原委員】

今の3つだったらよいと思う。

【池田会長】

どれでも構わないですか。

【前原委員】

僕はいいかなと思います。

【速水委員】

これって市の建物ですね。

【池田会長】

はい。

【速水委員】

市の建物の名称って、こうやって委員会で決めるということはあるんですかね、逆に。愛称を募集するんだったら、市が決めればいい。

【梶間委員】

ということは、腹案があるということですかね。

【池田会長】

あとはじゃあ特に優先順位もなく、よろしいでしょうか。「歴史」が入っていればもう分かるので、後は文化庁との協議でよろしく願いいたします。

ということで、今日の5番目の議題は終わりましたんですが、そのほか何かございませんか。

【梶間委員】

これが完成しますと、総費用というのはどれぐらいかかるんですか。まだそういう話はできていませんでしたかね。

【池田会長】

それはまだですね。

それでは、ないのでしたら、これで事務局へ進行をお返ししたいと思います。

【事務局（村田）】

本日の審議、どうもまことにありがとうございました。池田会長はどうもありがとうございました。

これをもちまして、本日の議事日程は全て終了いたしました。慎重な審議をいただきまして、まことにありがとうございます。

第18回史跡小牧山整備計画策定会議を閉会いたします。どうもありがとうございました。